

聖光ヶ丘病院

SeiHikarigaoka Hospital

No. 16-017-2014更新

新築
病院

発注者	医療法人社団聖秀会	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	戸田建設株式会社千葉支店一級建築士事務所 TODA CORPORATION	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	戸田建設株式会社千葉支店	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

アメニティーの高い地域密着型の医療施設



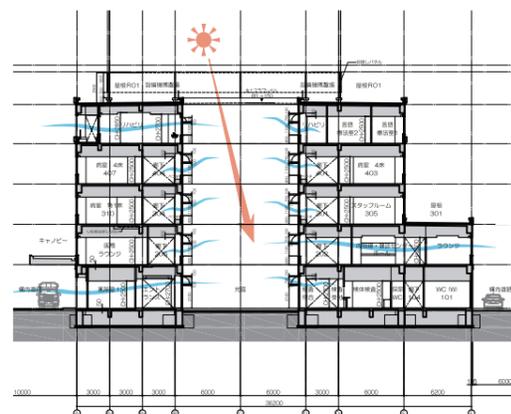
南東側 外観

シンボル性のある外観と

光庭を中心とした快適な内部空間

同市内に現存する病院の移転新築計画で、移転開院時219床（将来12床増床可能）の内科を中心とした病院である。

施主の地域に根差した運営方針を受け、外観は地域のシンボルとして、また内部は光庭を中心としたアメニティーの高い建物となっている。光庭長手方向は2スパン（約12m）あり、内部への採光と通風を確保し、快適な室内環境を形成させている。

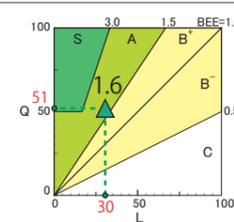


断面図



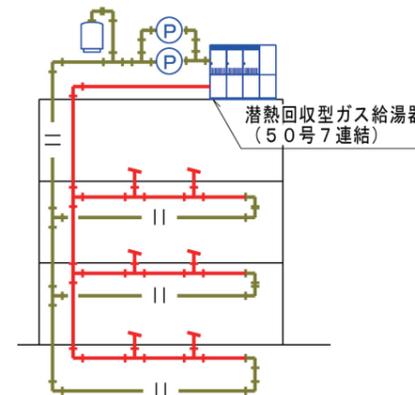
光庭

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	PAL削減	Aランク
所在地	ERR (CASBEE準拠)	BEE=1.6
竣工年	LCCO ₂ 削減	柏2010年度版 第三者認証
敷地面積		
延床面積		
構造		
階数		



効率の良い給湯方式

建物全体の給湯熱源に熱効率の良い、潜熱回収型ガス給湯器（50号連結型）を採用し、省エネルギー及びランニングコスト低減に寄与している。また、給湯循環ポンプを2台並列とし、故障時でも給湯の供給を止めずに、メンテナンスできるように配慮している。



地下水膜ろ過システムの採用

敷地内に井戸を掘削した地下水膜ろ過システム、及び、公共水道（柏水道）との二元給水システムにて病院で使用する給水をまかなっている。

自然の地層でろ過された深井戸からの地下水を、高度な膜ろ過処理により食中毒の原因となる細菌類・原虫類などを除去している。

井戸は地震の影響を受けにくいことが過去の震災で実証されており、非常時のライフライン確保として、事業継続（BCP）にも貢献している。



地下水膜ろ過システム参考写真

設計担当者

統括：松尾肇/PM：松尾肇/建築：井上玲/構造：向井幸一/設備：小川定巳、佐藤達也

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性（地下水ろ過システムの採用による設備の信頼性（BCP対応））
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮（隣接建物との連続性があり、近隣への日影等の影響を配慮した建物配置、地域密着型の医療施設としての地域のシンボル性のある外観）
- LR1. 3. 設備システムの高効率化（高効率給湯器、全熱交換器の採用等）
- LR2. 1. 水資源保護（節水型衛生器具の採用）
- LR3. 2. 地域環境への配慮（屋上緑化）

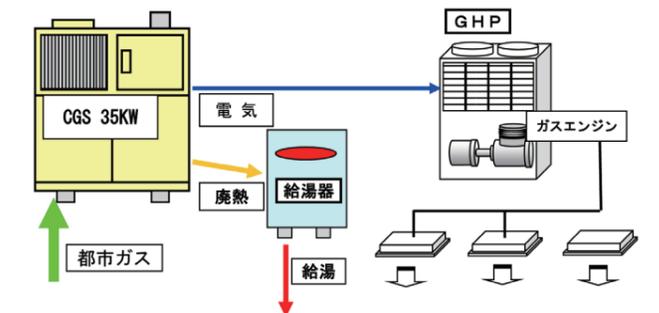
マイクロコージェネレーションの採用

定格出力35KWのマイクロコージェネレーションを屋上に1台設置し、電気と熱を効率よく運転する熱電供給システムを採用している。

停電時にも自立運転を行い、電気利用としては、ガスヒートポンプパッケージの電源として活用しています。

廃熱は、潜熱回収型ガス給湯器（50号連結型）の給湯予熱用として利用している。

このシステムの採用により、病院検査、診察部門の空調について災害時にも継続運転が可能となり、病院の機能保全に寄与している。

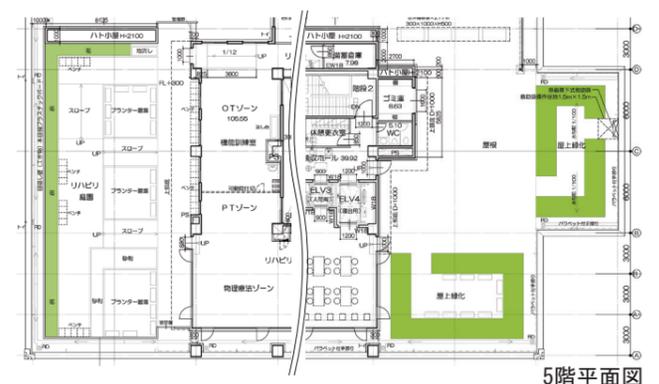


LED照明の採用

エントランス、風除室、外来待合、スタッフステーション、デイルーム、リハビリ室、職員食堂と廊下の一部にて採用し、省エネルギー、省メンテナンスを考慮した。

屋上緑化とリハビリ庭園

5階屋上において、東側屋上の一部を緑化、西側リハビリ庭園（2重床）とすることにより断熱性能を上げ、屋上のアメニティーと共に省エネルギーに配慮した。



5階平面図